

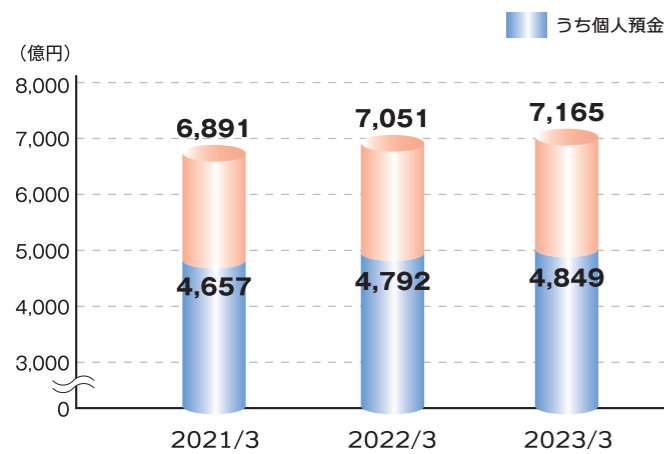
## 2 業績ハイライト (単体)

### 2022年度 決算概要

#### ■預金残高

～年間増加率1.6%～

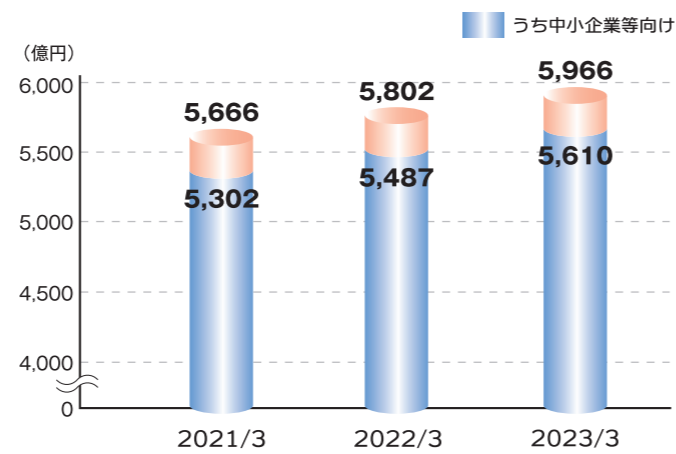
店頭・店周営業の着実な実践によって、個々のニーズやライフステージに応じた商品・サービスの提供に努めたこと等により、預金残高は前期末比113億円1.6%増加の7,165億円となりました。



#### ■貸出金残高

～年間増加率2.8%～

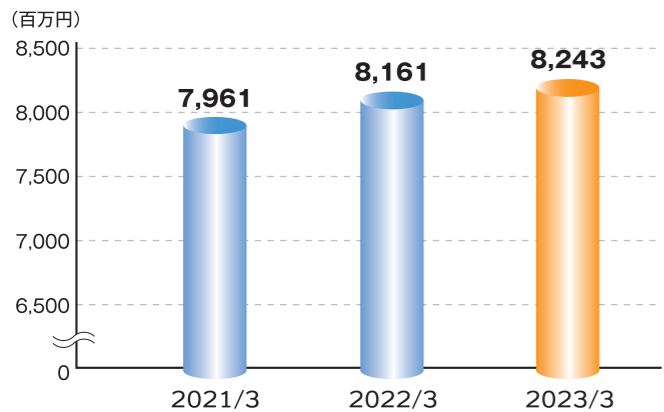
定期的な顧客訪問によって金融仲介機能の発揮に努め、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたお客様への継続的な金融支援等により、貸出金残高は前期末比163億円2.8%増加の5,966億円となりました。



#### ■預貸金利益 (貸出金利息－預金利息)

～5年連続の増益～

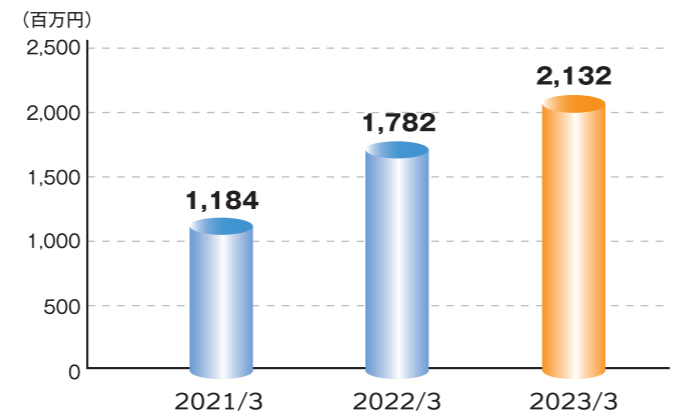
貸出金利息が5年連続で増加するなど本業が堅調に推移したこと等により、預貸金利益は前期比82百万円1.0%増益の82億43百万円となりました。



#### ■当期純利益

～2年連続の増益～

本業が堅調に推移したほか、与信費用の減少等により、当期純利益は前期比3億49百万円19.5%増益の21億32百万円となりました。

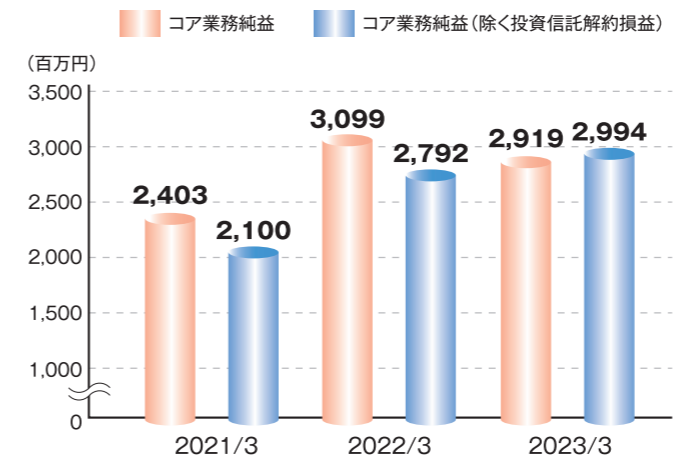


#### ■コア業務純益

～本業利益は着実に増加～

預貸金利益が5年連続で増益となり、経費削減等も寄与したことで、本業の収益力を示す投資信託解約損益を除くコア業務純益は29億94百万円と堅調に推移しております。

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券関係損益}$$

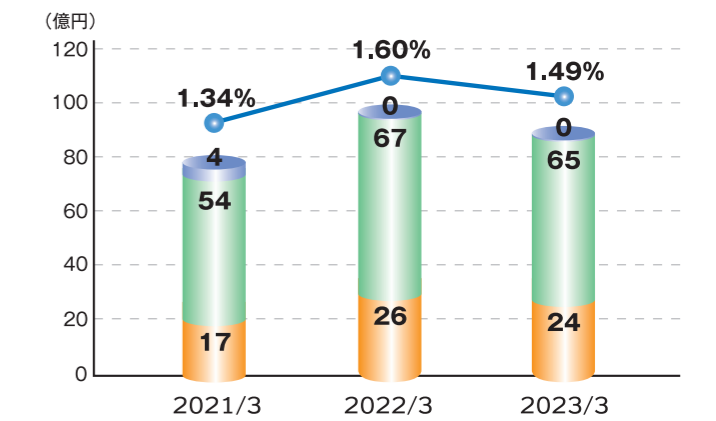


#### ■不良債権の状況

～1%台 高い健全性を維持～

金融再生法開示債権及びリスク管理債権は89億57百万円となり、総与信残高に占める比率は1.49%となりました。なお、同債権の85.29%を担保等でカバーしております。

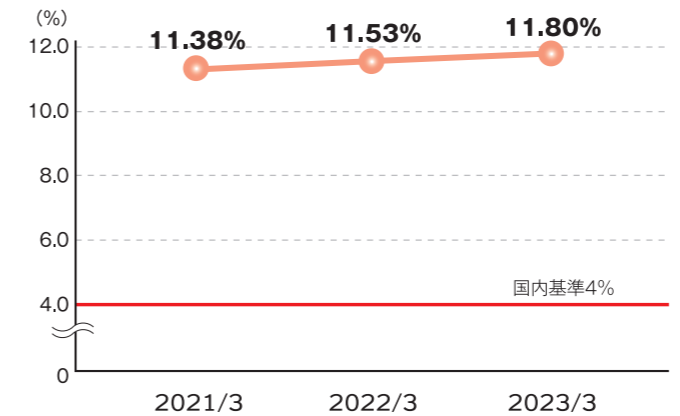
破産更生債権 危険債権 要管理債権 不良債権比率



#### ■自己資本比率 (国内基準)

～高水準の自己資本比率を堅持～

自己資本比率は11.80%と国内基準の4%を大きく上回り、高水準の自己資本比率を堅持しています。



#### ■ROE (自己資本利益率)

～収益力アップと経費削減に注力～

収益性指標であるROE(業務純益ベース)は5.94%となり、安定的な水準を確保しています。

